

人権学習展開例〔第3学年〕

1 主 題 偏見について考える。

2 教材名

27 あの子

3 主題・教材について

日々の生活の中で、自分が気づいていないうちに偏見にとらわれていることが多い。多くの場合、偏見は特定の個人、グループに対する批判的・否定的な態度につながりやすい。そして、偏見に基づいて、その人やそのグループの人々を異なったように扱う言動が差別である。

この教材を通して、人には、偏見をもってしまう傾向があることに気づかせるとともに、身の周りにある偏見に気づき、事実に基づいて判断することの大切さを理解させたい。また、自分が偏見をもって他の人を見ていることがないか、自分たちの身の周りで「あの子」のような存在をつくり出していないか、集団をふり返るきっかけとしたい。

（関連領域：道徳）

4 ねらい ・人の噂や見た目などで判断せず、自分自身で事実に基づいて判断する態度を養う。

5 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	- 題名の「あの子」からどんな話か想像し、発表する。 - 教材「あの子」を読む。	- あの子がどんな子なのか、自分なりに考えさせた上で活動に入らせる。 - 教材を読み聞かせる。 - 役割を決めて読ませて、話の内容を理解させるのもよい。	
展開	どんな言葉が広がっていったのだろう。 周りに広がっていく言葉を考える。	「あの子といっしょにおらんほうがええで。」という言葉から「いっしょにおったらあかんねんてー。」という言葉に変わりながら広がっていることを気づかせる。	
	どうしてあの子といっしょにおらんほうがいいのだろう。 いっしょにいない方がいい理由を考える。	だれも理由を知らないのに、言葉が広がっていることに気づかせる。	
	もし、あの子が知ったらどんな気持ちになるだろう。 あの子が、このような話が広がっているのを知ったとしたら、どんな気持ちになるか考える。	グループでロールプレイしながら、あの子の立場について考えさせる。	
	自分なら、どうするだろう。 - 周りの子どもたちが、あの子に関してとった行動について、考えを発表する。 - 自分ならどうするか、話し合う。	- あの子の話をしていた子どもたちの顔がすべて同じである上に、真実についてだれも知らなかったことに気づかせる。 - 自分の力で真実を知ろうとする意識をもつことの大切さに気づかせる。	
まとめ	自分たちの学級生活をふり返る。 自分たちの学級生活をふり返る。	自分たちの学級生活をふり返る。 あの子のような立場になったことがないか、あの子のような存在をつくっていないか、といったことをふり返らせる。	

【教材の出典】解放出版社エルくらぶ『あの子』ひぐちともこ さく：え